



箕面小だより



箕面市立
箕面小学校
令和7年(2025年)
12月号

学校教育目標
めざす子ども像
めざす学校像

支え合い、ともに伸びゆく箕面小っ子

ともに考える子(知)、ともに高め合う子(情)、ともにやりぬく子(意)

○あいさつと笑顔であふれる学校

○思いやりと優しさが感じられる学校

○高学年が在校生の「あこがれ」の存在となる学校

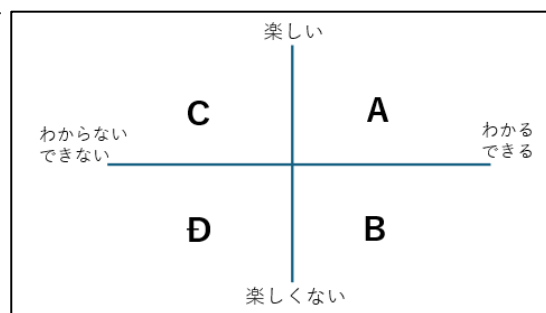
○保護者・地域とともにあゆみ、信頼される学校

学ぶ楽しさ・喜び

校長 垣内 幸太

本校は、大阪府のスクール・エンパワーメント推進事業に関連して、加配教員をいただいて3年目となります。その加配教員を中心に、「わかる、できる、たのしい授業」をテーマに掲げて、日々の授業に向き合ってきました。その成果をお伝えするべく、11月20日には、本校を会場に公開研究会を開きました。

この事業が始まった2年前の春、わたしたちがめざす授業を右の4象限の図を使って、当時の先生たちと確認しました。授業を大きくA～Dの4つに分けたとすると、授業とは、どこをめざすべきでしょうか。これは意見が分かれることもほぼありません。「A」の「わかる、できる、そして楽しい授業」です。



では、反対にもっともめざしたくない授業はどこでしょう。

意見は分かれます。わたしが思うもっとも避けたい授業は「B」の「わかる・できる、でも楽しくない授業」です。「楽しくなくても、わからない・できない「D」よりはましだ。」という考え方もあるでしょう。もし学びがその場で完結するなら、その考え方も理解できます。しかし、子どもたちの学びはこの先もずっと続きます。楽しくないのに、わかった・できたこと(もっと言うとわからされた・できるようにされたこと)は、未来の学びに向かう原動力になりにくいと考えるからです。

「なるほど!そういうことか!」「どうすればできるようになるんだろう?」「調べてみよう!」「だれかに聞いてみよう」…、私たちが育てたいのは、わかる・できることに喜びを感じ、楽しみながら探求心をもって、学びに向かう子どもたちです。予測困難なこれからの時代。AIがある程度の答えは示してくれる時代。単なる知識や技術の詰め込みでは、いずれ行き詰まります。

楽しさは一時的な感情ではなく、次なる学び、つまり未来への扉を開く力です。子どもたちが自ら問いを立て、挑戦し、仲間と共に成長する場をつくること。それが、これからの授業の使命だと信じています。箕面小では、これからも子どもたちと共に、そんな授業を追い求めていきます。

今年も残すところ1か月となりました。朝夕の気温もぐっと下がり、学級閉鎖も増えています。皆様も体調管理に十分ご留意ください。少し早いご挨拶となりますが、2025年も大変お世話になりました。保護者、地域の皆様、日頃より、子どもたちを笑顔で見守っていただきありがとうございます。それぞれのご家庭で幸せな時間を過ごされ、新しい年を迎えられますようお願い申し上げます。3学期も、引き続き、本校教育活動への変わらぬご理解ご協力をよろしくお願いいたします。